

第2章 景観構造と特性

2-1 景観構造・特性

本市は、16世紀に蜂須賀家政が山河に囲まれた吉野川の南の土地に徳島城を建設したことから、城下町として発展し、都市が形成されました。その後、明治以降の都市計画に基づく基盤整備や戦災復興を経て、今日の都市の姿が形成されました。

本市の景観構造は、眉山や吉野川の支流などによる三角州などの自然が創りだす「大地の姿」を基本とし、それに沿うように城下町の町割りや近代都市計画による鉄道や道路などが「都市の履歴」として積み重ねられてきたことで、現在の都市の骨格や軸を形成しています。

(1) 大地の姿（都市の基本構造）

本市は、市域の中央部から北東側に広がる吉野川河口部の三角州の低平地と市域の南西側に広がる四国山地に連なる山地・丘陵地に大別できます。

低平地の特徴は、網状に流れる河川が創りだす多くの「島」であり、新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」にひとつの典型を見ることができます。

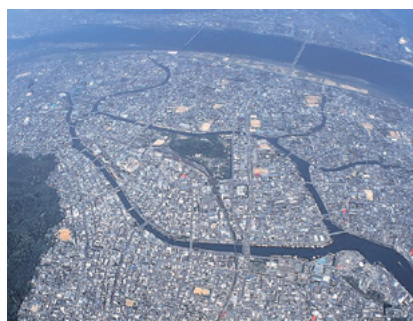
山地・丘陵地の特徴は、南西側に広がる山地・丘陵地の分離丘陵である眉山が、低平地に張り出すような形で入り込んでいることにあります。

1) 低平地（河川が形成する三角州）

本市には、四国随一の流域面積を誇る吉野川をはじめとする大小138の河川が流れています。これら河川により形成された三角州地形が多くの島を創りだし、市街地の中心に広がっています。また、河口部では、土砂の堆積による砂浜海岸が形成されています。



吉野川



ひょうたん島



小松海岸

<代表的な場所>

吉野川・新町川・助任川・佐古川・大岡川・住吉島川・沖洲川・園瀬川・鮎喰川・勝浦川などが形成する低平地（三角州）、ひょうたん島、小松海岸など

2) 山地・丘陵地

市城南西の山地・丘陵地には、四国山地に連なる山並みが広がり、そのなかを鮎喰川などの中小河川が小規模な山間平地を形成して流れています。市域中心に張り出した眉山や岩礁海岸を形成している日峯山は、山地・丘陵地の分離丘陵となっています。



眉山



日峯山からの眺望



大神子海岸

<代表的な場所>

眉山、日峯山、津田山、辰ヶ山、東龍王山、負出山、中津峰山、大神子・小神子海岸など

【大地の姿（都市の基本構造）】



(2) 都市の履歴（都市の基本骨格・軸）

城下町徳島は、網状に流れる河川が創りだす多くの島々（中洲）を築堤（島普請^{しまふしん}）し、建設された都市で、江戸時代後期から明治時代中期にかけて、藍の流通による商業都市として繁栄しました。

しかし、徳島大空襲により市街地の大半を焼失し、戦後の都市計画においては、城下町の都市基盤を受け継ぎながら新たな都市の骨格や軸が形成されました。

1) 城下町の都市基盤

城下町徳島では、網状河川が入り乱れていた低湿地の造成を行い、現存する城山を中心に武家地、町人地、寺社地が形成されました。また、淡路街道をはじめとする道路とともに、河川による水上交通の発展により城下町の骨格が形成されました。

また、現在の地名として残る寺町は、城下町の面影を残しています。



徳島城跡



寺町

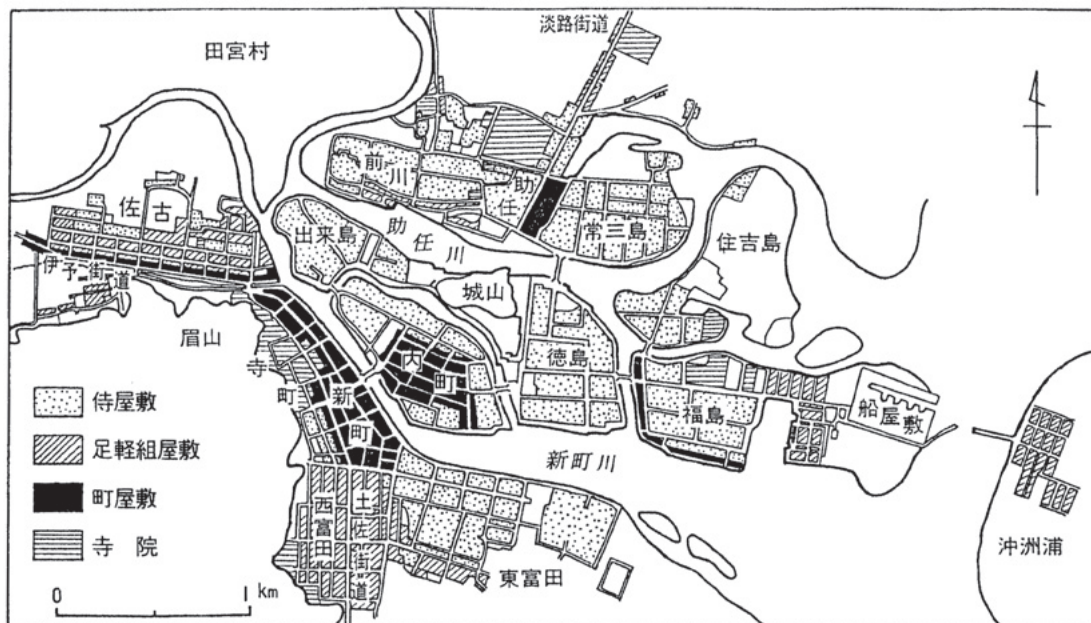


佐古川沿いの家並み

<代表的な場所>

城山（城跡）、寺町、佐古、二軒屋町、淡路街道、讃岐街道、伊予街道、土佐街道など

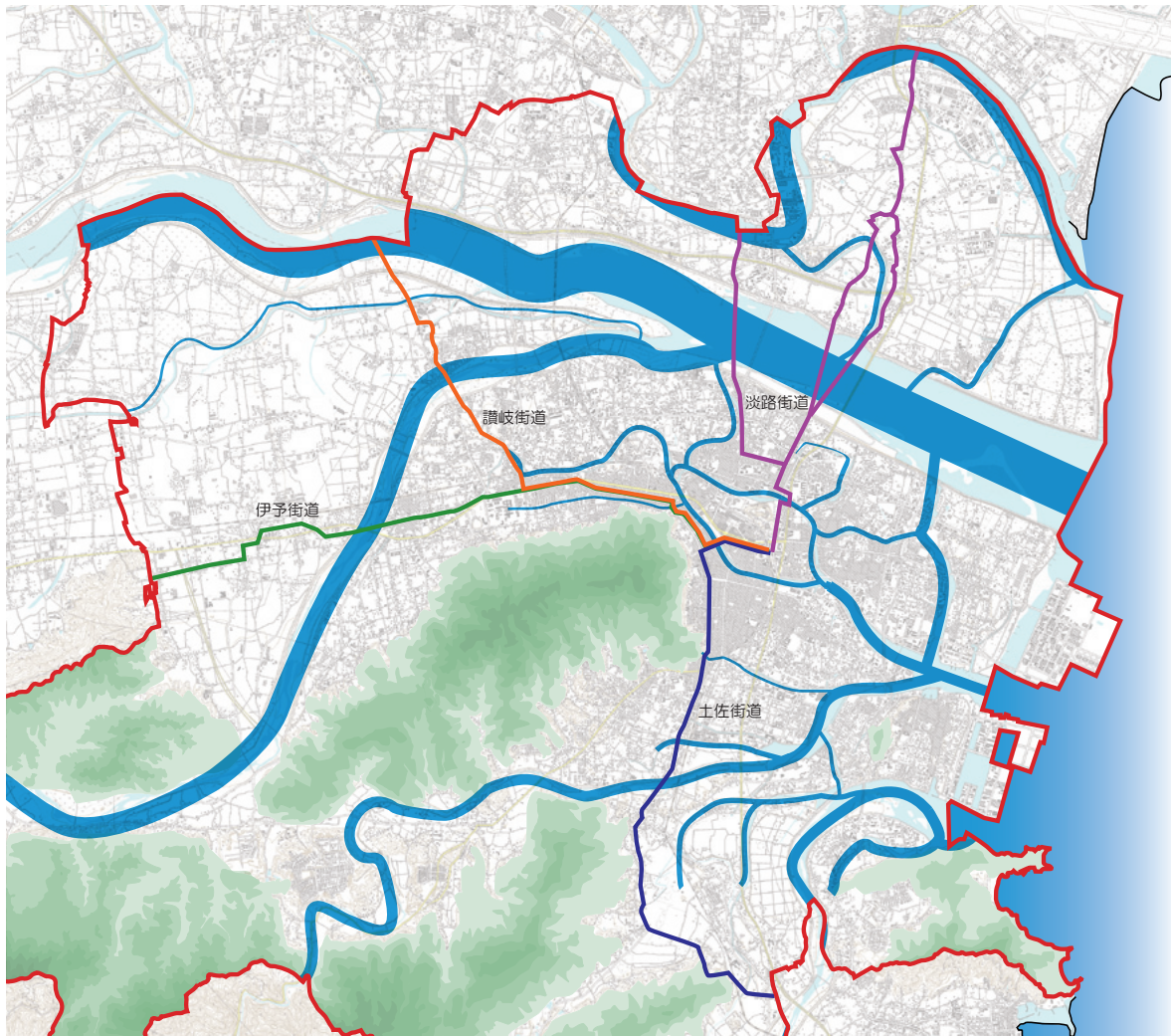
【都市の履歴 一城下町の骨格一】



寛文5（1665）年「阿波国渭津城之図」（徳島県立博物館所蔵）にみる徳島城下の町割
服部昌之（1966年）原図を一部修正。

出典：徳島の地理 徳島地理学会編

【都市の履歴 ー城下町の軸(阿波旧街道)ー】



徳島県教育委員会 「徳島県の歴史の道 調査報告書」 参照

2) 近代の都市計画

本市は、明治以降、城下町の都市基盤を受け継ぎながら発展を遂げてきました。阿波旧街道に対応して新たな道路が建設され、昭和初期までに現在の鉄道網が敷設されました。

その後、徳島大空襲により市街地の大半を焼失し、現在の都市の骨格や軸となっている道路は、城下町の町割を基盤に戦後の復興計画により形成されてきました。

本市の公園・緑地には、城下町の名所やその遺産が継承されたものと新たに都市計画施設として、山地・丘陵地や河川敷などに設置されたものがあります。



新町橋通り



JR 牟岐線



徳島中央公園

<代表的な施設等>

道路：国道11号、国道192号

県道39号徳島鳴門線、県道1号徳島引田線

県道30号徳島鴨島線、県道15号徳島吉野線、県道137号土成徳島線

国道55号、国道438号

県道120号徳島小松島線（旧国道55号）、県道212号新浜勝浦線、県道16号徳島上那賀線






県道21号神山鮎喰線、県道207号鬼籠野国府線

鉄道：JR徳島線、JR高徳線、JR牟岐線

公園・緑地：徳島中央公園、日峯大神子広域公園など

【都市の履歴（都市の基本骨格）】



凡例	 城下町の街道（淡路街道、讃岐街道、伊予街道、土佐街道）	 河川に対応するかたちで整備された主要幹線道路
	 に対応するかたちで整備された主要幹線道路	 鉄道
		 鉄道駅

2-2 市民の目に映る景観

(1) 校歌に歌われた景観

市内の小・中学校の校歌に歌われた景観（地名）としては、「吉野川」が最も多く約40%、次に「眉山」が約30%と、多くの校歌にこれら二つの地名が使われています。このことから、市民の「吉野川」、「眉山」に対する親しみや心象風景としての存在であることがわかります。

(2) フォトコンテストで着目された景観

徳島県などによる『あるでないで ええ景観！フォトコンテスト』（平成18年度から実施）では、眉山や吉野川、ひょうたん島、新町川水際公園、しんまちボードウォーク、城山とその周辺、寺町などの代表的な場所や古い町並みが本市の“ええ景観”として注目され、応募がありました。



夕日に映える眉山



城山と数寄屋橋



吉野川の夕景



吉野川橋



新町川の遊歩道



新町川水際公園



寺町景観



昼のケンチョピア



佐古川沿いの景観

写真の引用元：徳島県・徳島県建築士会による『あるでないで ええ景観！フォトコンテスト』応募作品、とくしまっぶ

(3) 大切にしていきたい景観や自然環境

平成 21 年度に実施した「徳島市都市計画マスタープラン策定に向けた住民アンケート調査」では、「大切にしていきたい景観や自然環境」として最も多かった回答は、「眉山」で、次いで「吉野川」となっています。「眉山」と「吉野川」の2つは、市民にとって、県外から帰省した際に「徳島に帰ってきた」と感じさせてくれる心象風景として、後世に残したい景観や自然環境といえます。

<アンケート調査結果>

【大切にしていきたい景観や自然環境など】

- 眉山
- 吉野川
- 新町川
- 城山（徳島中央公園）
- 水際公園（しんまちボードウォーク）
- 文化の森総合公園
- 西部公園
- ひょうたん島
- 徳島市内の河川（勝浦川、鮎喰川、園瀬川 など）

【身近なもの】

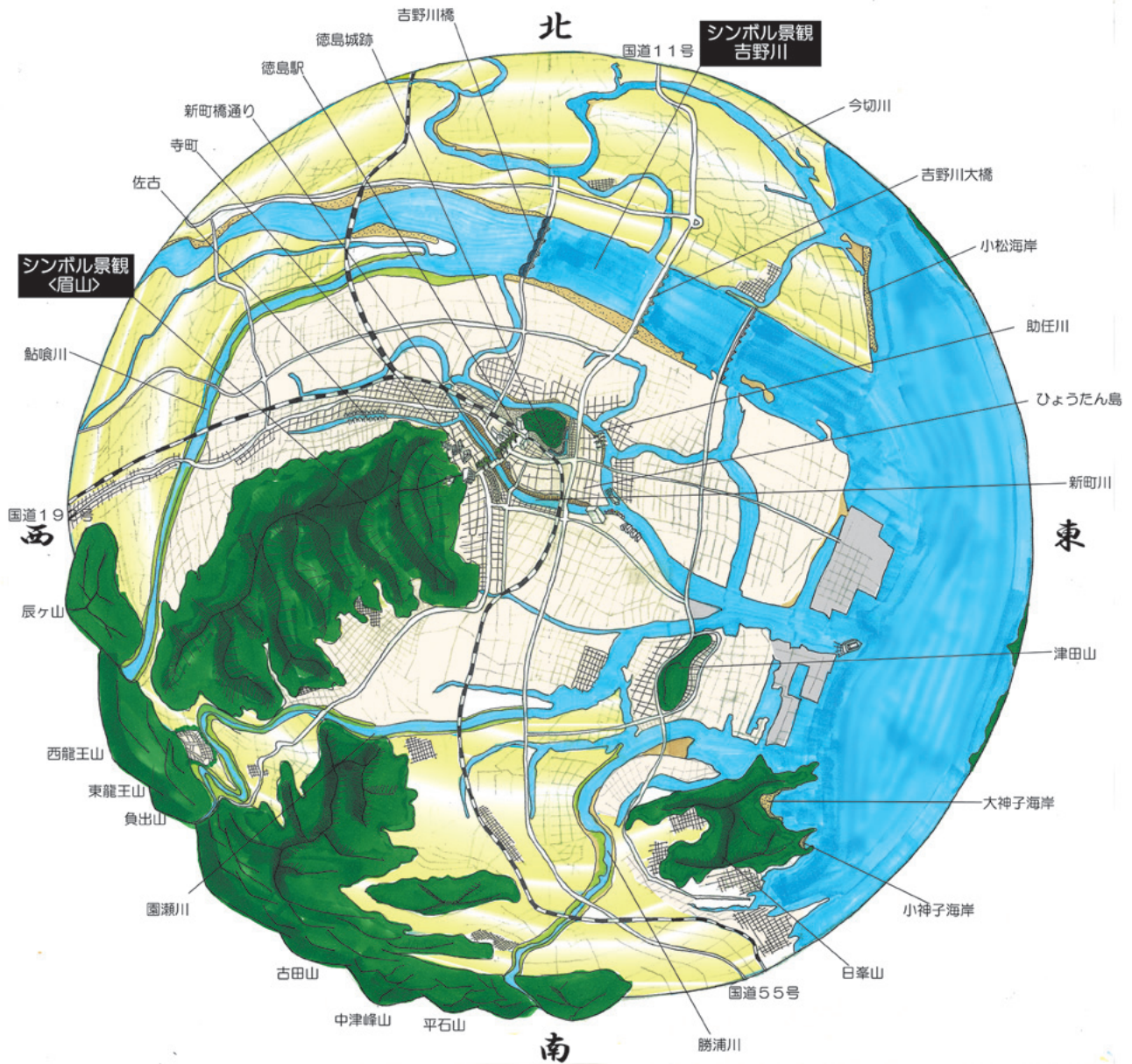
- 県庁前ヨットハーバー
- 方上町の弁天山（日本一低い山）
- 蜂須賀墓所（興源寺）
- 地藏橋駅の立派な桜
- 銀座商店街のけやき通り
- 南沖洲の松原（松の防風林）
- 大原町の大神子石（おとめ石）で作った民家の石垣

2-3 景観構造とシンボル景観

本市は、南西側に中津峰山を代表とする山々が広がり、東側は海に囲まれています。中心部はいくつもの河川が網状に流れる特徴的な地勢からなるひょうたん島や緑豊かな城山を中心に都会の雰囲気を持ちながら、自然を感じられる市街地が広がっています。そして、その周囲にはいくつかの河川が流れている田園地帯が広がっています。

本市の景観構造のなかで、ひときわ目を引くのが「眉山」と「吉野川」です。

「眉山」は、中心市街地に張り出すことで、都心空間に自然環境をもたらしています。また、「吉野川」は、都心部へのアプローチとして視覚的にも、心情的にも変化をもたらす起点となる場所であり、同時に広大な自然風景をもたらしています。どちらも市民にとって、大切な心象風景であり、本市の重要な景観要素として「シンボル景観」といえます。

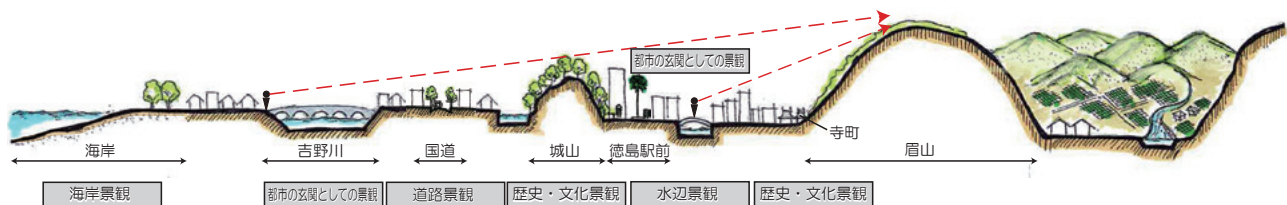
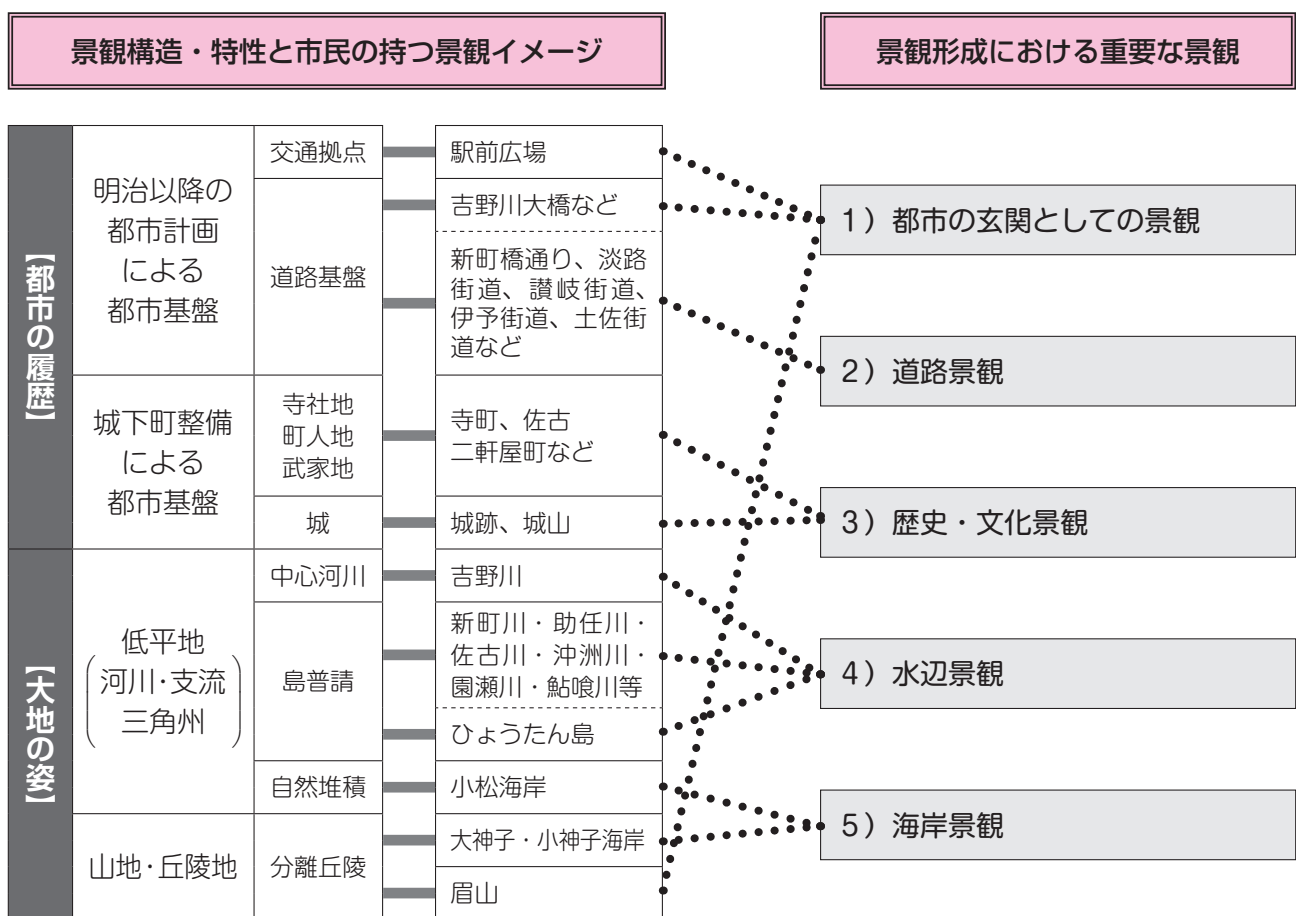


2-4 重要な景観

本市の景観は、「大地の姿」を現す「眉山」、「吉野川」に代表される山河が都市構造の基本となって形成されています。その構造に沿うように「都市の履歴」として継承された城下町としての城跡・町割・街道が形成され、さらには近代都市計画に基づいた幹線道路・緑地公園が積層して構成されています。

市民の多くの目に映る景観は、徳島のイメージとして市民に共有化されている要素であり、いずれも景観上重要な市民の心象風景として認識されています。

本市の景観形成における重要な景観は、景観構造・特性と市民が持つ徳島らしさの景観イメージから5つの景観に整理できます。



■ 景観形成における重要な景観

1) 都市の玄関としての景観

多くの人々や来訪者が行き交う徳島の顔としての景観

本市の中心部に入ったと意識させる橋上からのシンボル（眉山）景観



JR 徳島駅前



吉野川大橋から見た眉山への眺望

2) 道路景観

新町橋通りなどの幹線道路とその沿道の建築物等によって形成される景観



新町橋通り



紺屋町シンボルロード



交通量の多い国道 55 号

3) 歴史・文化景観

今も残る歴史的まち並みや建築物が周辺地域と調和した景観



和風の塀や瓦屋根などが並ぶ寺町



徳島城跡の堀沿いに建ち並ぶ建物



佐古川沿いの景観

4) 水辺景観

人々の暮らしに溶け込む水辺の景観



市民の憩いの場である
新町川水際公園



新町川沿いに整備された
しんまちボードウォーク



助任川河岸緑地

5) 海岸景観

海と海岸が生み出す自然景観



小松海岸



おとめ石の大神子海岸



小神子海岸